

令和7年度第1回塩竈市子ども・子育て会議 議事概要 報告書

1. 会議名	令和7年度第1回塩竈市子ども・子育て会議
2. 日 時	令和7年7月24日（木） 18:30～20:10
3. 場 所	市民交流センター第2・3会議室（壱番館庁舎5階）
4. 出席者	<塩竈市子ども・子育て会議委員> 8名（欠席3名） <塩竈市> 10名 福祉子ども未来部長、子ども未来課長、課長補佐、 課長補佐兼子ども企画係長、家庭相談係長、親子保健係長、 子ども企画係主査、保育課長、課長補佐兼保育係長、 教育部学校教育課副参事兼課長補佐兼指導主事

<議 事 概 要>

1. 開 会 司会（課長補佐兼子ども企画係長）

2. あいさつ 塩竈市子ども・子育て会議会長より

3. 議 事

（1）報告事項

① 第2期のびのび塩竈っ子プラン（令和6年度）の進捗状況について
・資料1を使用し、第2期のびのび塩竈っ子プラン（令和5年度）の進捗状況を説明した。

② 子育て支援事業の実施状況等について
・資料2を使用し、子育て支援事業の実施状況等について説明した。

③ 保育事業の実施状況等について
・資料3を使用し、保育事業の実施状況等について説明した。

4. 事務連絡等

5. 閉 会

<議事>

(1) 報告事項

～～①から③の報告事項について、事務局より一括で説明～～

- 【議 長】 3件続けてご報告いただきましたが、ご意見、ご感想をお寄せいただけたらと思います。
- 【委 員】 資料2-1のこころん caféの利用率はどのくらいで、企画はどのようなもので、どのように集客を考えていますか。お菓子などを無償で提供してくださる協力店は現在何店舗くらいでしょうか。
- そして、リフレッシュチケットにはどのような意見が届いていますか。「休む」ということが子育てにどれだけ影響するのか、ということをご妊娠中から伝え、チケットを使って、お母さん、お父さんが自分達の心身を整えることがいい子育てにつながる、という教育や啓蒙も行うべきです。また、対象者が2歳という点は気になります。託児の面や安全面などで2歳に設定したのですが、一番休んで欲しいのは、産後間もないお母さんやその家族だと思います。もう少し対象年齢を下げ、産後間もない頃から産後ケアのように使える仕組みにすればいいと思います。また、利用している人はどのくらいですか。
- 【事 務 局】 こころん Caféは今年度、4月にプレオープンとして開催後、5月29日に第1回、6月26日に第2回を開催し、どの回も定員8名が参加されています。募集方法ですが、Instagramで募集し、電話でお申し込んでおります。各回にテーマを設けています。例えば「転入ママの会」ですとか「何かを作ってみましょう」などのテーマでお集まりいただき、塩竈の名菓・名産品を楽しみながらティータイムで交流を図っていただき、イベントを行った後、懇談していただいています。
- 協力店からは、お菓子などを無償でご提供いただくこととなりますので、私たち職員が本町近辺や新浜町の蒲鉾店などを回り、現在は8店舗からご了解をいただいています。1店舗だけでは負担が大きいため、1年間で1回協力いただければということで、12店舗を目指しています。
- しおがま育児ママパブリックリフレッシュチケットは、6月30日にチケットを発送し、7月1日から利用可能です。なぜこのような事業を行うのか、ということや、年齢的な部分についてご意見をいただきました。また、事業を行うにあたって啓蒙活動が不足しておりましたので、機会を捉えて啓蒙活動を検討いたします。

子育てアンケートの結果では、育児疲れの割合が高い順に0歳、2～3歳、1歳となります。0歳児は目も手も離せない、だからこそ育児疲れに繋がっていると理解しています。本事業は、育児疲れの早期解消を目的に、リフレッシュにつながるサービスを受けていただくものですが、サービスを受けていただくにはお子様から離れる時間が必要なため、その時間を作る方策の一つとして、一時預かり事業もサービスに含めました。一時預かり事業は1歳以上の子供を対象とする施設が多いこと、0歳児を預けることや、預かることの困難さから、2歳に達する幼児の保護者を対象としました。

今後、利用者アンケートや協力店アンケートを行い、対象や事業についての意見をいただくことを考えております。皆さんのお声をいただきながら、より良い事業にしたいと考えています。

【議長】 こころん Café は、毎回8組が埋まっているとのことなので、今後、満席になった後にどういう柔軟な対応をするか、例えば、定員は8組だが10組までは受ける、新規利用を優先にする、等の柔軟な対応もあればいいと思います。真の目的は、こころんと地域の保護者様との繋がりを持つ機会を作る、ということだと思います。より多くの方がこの機会を通じて繋がり、定員と申込者数をどのように調整するかが大事だと思います。

リフレッシュチケット贈呈対象者は、2歳に達する幼児の保護者、ということですが、2歳までに1人1回利用できる、0歳児の育児の時も利用できる、などの柔軟な仕組みもご検討ください。今回、217人に配り、何人くらいがお使いになったのでしょうか。

【事務局】 7月1日から利用が始まり、協力店から月締めでご請求いただきます。まだ請求が来ておらず、実数を把握できないのが現状です。

【議長】 チケットの利用期限は年度内でしょうか。

【事務局】 通常であれば利用期限を年度内とするところですが、準備に時間を掛けてしまったということもあり、年度を超えた4月30日までを利用期限に設定しています。

【議長】 毎年、この場でも報告していただければと思います。1人平均いくくらい利用しているのかは分かりますよね。贈呈されたのに利用していない、という保護者がいれば、次の一手を考えることも必要かと思います。啓蒙活動を行うことと、協力店のジャンルに幅を持たせることが、次の戦略かと思います。

【委員】 こころん Café は、ママパパ 8 組で最大 16 名ということですが、参加中にお子さんはどうするのですか。私は 0～2 歳児の子育てが一番辛かったので、参加枠を広げていただけるとありがたいです。例えば、定員 8 組に対して毎回 10 組、12 組の申込があるとすれば、月に 2 回開催して、参加する機会を増やしてもいいと思います。

【事務局】 こころんの隣のうみまち保育所に一時預かりの部屋がございますので、こころん Café 開催中、そちらで託児をさせていただいております。お子様が遊んでいる間、ママパパにリフレッシュをさせていただいております。

【委員】 その場合の年齢制限はありますか？

【事務局】 こころんは、基本的に未就学のお子さんが対象ですので、この事業につきましても未就学のお子さんのママパパを対象に行っております。0 歳児から参加可能です。

【議長】 参加者のお子さんの年齢によって、ニーズが変化すると思います。今後、こころんに定着してくれるママパパがいれば、先輩ママパパとしてこころん Café に参加してもらうと、「人に貢献している」という感覚を持つのではないのでしょうか。もう少し大きい定員で開催して、グループワークもできるのではないのでしょうか。

【委員】 資料 1 の数値から、放課後の居場所ニーズが高まっていると伺いましたが、放課後児童クラブの利用率が 7 割程度というのは低いと思います。居場所のニーズを拡大するため、ほっとスペース事業では今年度、どのような事業に助成していますか。

こころん Café は素晴らしい取り組みだと思いますが、ママパパの困りごと、生の声を伺いたいです。リフレッシュチケットは、家事代行サービスにも利用できると嬉しいです。

病児・病後児保育は、登録 91 名に対して利用者が 3～4 名程度で、周知が足りないのではないかと思います。周知に関してどのようにサポートされていますか。

【事務局】 ほっとスペース事業は今年度も実施しており、6 件を採択しました。事業内容は、小学生の居場所づくりや子ども食堂です。

こころん Café にどのような声があるかについて、参加者から確認させていただき、報告できるものは報告させていただきます。

リフレッシュチケットは今回、リフレッシュにつながる部分で事業設計いたしました。負担軽減という部分で家事代行サービスも重要と理解しておりますが、今回の事業では対象としませんでした。

【委員】 病児・病後児保育についても、ご回答お願いします。

【事務局】 記者会見等で広く市民の方々や広報機関に PR している他、看護師さんが各園を回ってパンフレットを置きながら PR しています。入所児でなくても利用できる制度ですので、保育施設に入っていないお子さんも利用できます。登録されている方は未就学児が多いのですが、小学校 6 年生まで利用できるということは知られていないため、そのことも含めて今後、PR に努めたいと思います。

【議長】 「保育」という言葉が付くため、小学 6 年生まで利用できるということは、市民の方に伝わりにくいと思います。学校側からの周知もお願いしたいです。

【委員】 保育園の利用が増加し、一時預かり事業の利用は減少している、と説明がありました。私が勤める保育園でも一時預かり事業を行っていますが、コロナ以降は利用が激減し、登録される方もなかなかいっしょらない状況です。今年度は少し増えましたが、市では一時預かり事業の利用が減っている理由を把握していますか。

【事務局】 市内で一時預かり事業を実施している施設は 5 施設ですが、昨年度は保育士さんが足りずに対応できない施設が 1 施設あったため、4 施設で 1,002 名をお預かりしました。一時預かり事業は、ご家庭にいらっしゃるご父兄が利用されることが多く、入所されている方は利用できません。入所者が増えると、一時預かり事業を利用できる対象者が少なくなるため、保育所の利用者数は伸び、一時預かり事業を利用する方は減る、という現状であると分析しています。

【議長】 今後、リフレッシュチケットを一時預かりに使うことをきっかけに「一時預かりを気軽に使ってもいい」と分かってもらえば、チケットなしでも一時預かりが浸透すると期待します。

放課後児童クラブの利用率は 7 割ということですが、下級生、上級生、という分け方でいいので利用状況の推移を見たいです。子どもの数全体は減少しています。上級生の利用が増えているから登録児童数が増えている、という可能性もあると思います。下級生と上級生では、1 人が占める熱量や空間の占め方が違います。上級生は力も強くなります。単純な数として捉えることは難しいと思います。

保育事業では、待機児童 0 ということで安心しました。旧来の幼稚園として運営する園は減少が著しいです。子どもが益々減った時に維持できなくなると、子どもを守る場所がなくなります。こども

園に移行していただく、などの選択肢を考えて、各園が地域の担い手として機能するよう、行政側でも考えていただきたいと思います。

今回初めて、1号認定、2号認定、3号認定とは何か、詳しくご説明いただきました。内訳がとても理解しやすかったです。

【委員】 低年齢のお子さんを支援したい方向けの助成金を作って欲しいです。ほんとスペース事業は小学生向けですが、低年齢のお子さんの支援を積極的にやりたい方たちもたくさんいると思います。

リフレッシュチケットで一時預かり事業を利用する方が多いということですが、お金をかけて自分の子供を見てもらうことに壁があるのだと思います。自分のためにリラクゼーションや、美容室でチケットを利用するより、一時預かり事業にチケットを利用する方が利用しやすいのかと思います。

色々な人に子供を預けたり、助けてもらうことに慣れてもらうことが、このチケットの目的になるのではないのでしょうか。どのようなところで使われているのかしっかり分析すると分かることもありそうです。その辺りの分析もよろしく願いいたします。

【議長】 リフレッシュチケットを一時預かり事業にも利用できる、ということを示すといいですね。今は「リラクゼーション」が前面に出ているので、利用のモデルを作って例示すれば、利用の幅が広がると思います。そうすると「どのようなことに使ったか」を問うアンケートが必要です。どのようなお店で利用したのか、データを回収できます。こういう使い方もある、と示すことができれば、一時預かり事業への利用も浸透すると思います。

【事務局】 一時預かり事業について補足いたします。この事業を実施する市内の5施設のほとんどで、リフレッシュチケットをご利用いただけます。チケット10枚全部をこの事業に利用する、という母親もいらっしゃいましたので、やはり必要な事業なのだと感じました。

【議長】 「子どもを預ける」ということがネガティブな子育てを意味するのではない、と分かってもらう必要があると思います。「仕事が休みなのに、あの家は子どもを預けている」と誤解をされないよう、啓蒙が必要だと思います。少し意識改革があると一時預かり事業を使いやすくなると思います。リフレッシュチケットは、柔軟な発想から出た素晴らしい企画だと思います。

【委員】 玉川小学校の校長先生にお伺いします。今日、民生委員と主任児童委員で杉の入小学校の仲よしクラブにかき氷を持って行きましたが、ふれあいエスプにも玉川小学校の仲よしクラブの子どもたちが

行っているのですか。明日は玉川小学校の仲よしクラブにだけかき氷を持って行く予定で、ふれあいエスパに行くことを考えていませんでした。

【委員（校長）】 ふれあいエスパも利用する時がある、という程度の認識です。

【委員】 玉川小学校に行けば子ども達を網羅できるということですか。

【委員（校長）】 はい。もし、子ども達がエスパに行っていたら、連れてくるようにします。「かき氷だよ」ということで。

【委員】 暑い中で連れてきていただくのも本当に申し訳ないです。昨年度も、ふれあいエスパには行きませんでした。うっかりしていました。来年度、必ずサポートできるようにします。

【委員（校長）】 ご配慮ありがとうございます。

【委員】 今日は杉の入小学校に 107 名の児童がおり、4 クラス使っているところを 2 クラスに分けてもらいました。高学年の子は体も声も大きい。でも、今年の子はとても立派で、紙芝居をとて集中して聞いていました。聞く態度がとてもよく、去年と全然違いました。

【議長】 色々な学年の子が同じ空間で過ごすというスタイルは学校にはないわけですが。普段の教室での過ごし方とは異なる工夫が必要だと思います。大人になって地域や会社で生活して働くために、とても大事な場だと思います。現場の先生が勇気をいただくコメントをいただきました。大きい子が、小さい子の見本になればありがたいです。

【委員】 仙台市の児童館には自由来館があり、仙台の方はそのことが普通だと思っているはずです。塩竈市でも藤倉児童館では自由来館できるのに、そのことを知らない方が多いので、もっと周知すればいいと思います。藤倉児童館だけが自由来館でも、第二小学校以外の小学校の子ども達は行けないので、仲よしクラブも自由来館にして欲しいです。

【議長】 仲よしクラブの利用率が 7 割、という中で、うまく人数を満たして実施できるでしょうか。実施するのであれば、実証実験として実施して、7 割の稼働率のところに自由来館の子どもが何人いた、という実績を作らないといけません。職員の負担も含めて考えることになると思います。例えば仙台市では、登録制、自由来館でそれぞれ

れどのくらい来館しているのか、というデータがあるでしょうか、それらも参考にできると思います。

【事務局】 先ほど、仲よしクラブは7割の利用率であるとお説明しましたが、「定員に対する7割」ではなく「登録児童数に対する7割」ですので、ほぼ定員数で運営しております。委員のおっしゃるとおり、児童館については自由来館とさせていただいております。仲よしクラブは制度上、自由来館としておりません。

【議長】 定員の7割ではない、ということで、実際は定員とピッタリぐらい、ということですね。

他にいかがですか。よろしいでしょうか。貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。以上で議事を閉じ、事務局に進行をお返しいたします。

【事務局】 ここからは事務局が進行いたします。事務連絡に移ります。1件ございます。教育委員会学校教育課からの報告事項がございます。それでは、説明をお願いします。

～～教育委員会学校教育課から説明～～

【事務局】 ありがとうございました。教育委員会学校教育課からの説明でございました。ご意見、ご質問等ございましたら、アンケートのQRコードを活用していただき、ご意見を挙げていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【議長】 次回から子ども・子育て会議の議事の中に入れて欲しいというのが、私の希望です。少なくとも「その他」として扱う話ではありません。とても大事な話だと思います。

子ども・子育て会議は、0歳から18歳までが対象です。教育部からも事務局に入っていていただきおりますし、校長先生にも委員に入っていていただきしております。ですから、「その他」で出てくる案件ではないはずです。そのような心づもりでご準備いただきたいというのが、議長からの依頼です。

委員の皆さんから、「これだけは伝えたい」ということは何かありませんか。せっかく教育長も来ていますし、貴重な機会ですから。

【委員】 アンケートはいつまでに回答すればいいのでしょうか。また、学校規模を適正化するのは具体的に何年後でしょうか。

【事務局】 集計の関係上、概ね2週間程度でご回答いただけると大変ありが

たいです。方針の策定は、令和 9 年 3 月を目標に進めていきます。

【委員】 それで方針は決まると思うのですが、実際に学校規模が適正化するのはいつでしょうか。

【事務局】 現状では、まだ決まっておりません。方針が確定し、その次の学年から学校がなくなる、というわけではありません。その年に入学した児童が最後の卒業生になります、という話になると思いますので、学校の再編が終わるのはかなり先の話になると考えています。

【委員】 そのようなお話も、この場で説明していただけると市民の皆さんも安心かと思います。

【事務局】 ありがとうございます。

【委員】 主任児童委員として、各小中学校の学校訪問を行い、懇談会に出席させていただき、不登校の子どもがすごく増えていると痛感しました。また、子ども達の分母になる人数が少ないのに、不登校の子ども、そしてグレーゾーンの子が多く、先生達は本当に大変だと感じました。

もう一つ、1 学年 1 クラスのところは大変だなと思います。特に去年はすごく感じました。いい時にはすごく良くなるかもしれませんが、人間関係も濃密過ぎて、1 年生から 6 年生までみんな同じメンバーでは不登校も増えたりするのかな、と思いました。いい思いをすることもあるかもしれませんが、つらい思いをすることもあるかな、と色々感じるがありました。

1 学年 1 クラスということは、1 学年に担任の先生が 1 人しかいません。昔は 1 学年に 8 クラスの先生がいて、6 学年で 50 人近い先生がいて学校運営をしていましたが、1 学年に先生 1 人では、何かしらのサポートをする先生がいたとしても、学校運営が大変だと感じております。

今でさえ、子どもを車で送り迎えしている方が増えていますので、学校を統合して、子ども達が通うのに遠くなるとますます困りますし、交通安全の面でも心配です。でも、子ども達は集団の中で育つだろう、よりよい集団のためには、1 学年 1 クラスはどうなのかな、という思いはあります。

【事務局】 委員のおっしゃるとおり、子どもの数は減っており、一小では 1 年生から 4 年生まで 1 クラスという現状です。懸念されるのは、コミュニティの固定化です。例えば、その中で順位付けなどを行ってしまうと、そのまま 6 年生まで進んでしまうと懸念されます。

一方で、小規模になればなるほど、先生方が子供を見られる範囲が広がると思いますので、デメリットばかりではないと思います。皆様の色々な意見をいただきながら、具体案の策定に努めたいと思います。

【事務局】 ありがとうございました。他にご意見ございますか？よろしいでしょうか？

【事務局】 最後に福祉子ども未来部長より閉会の挨拶を申し上げます。

～～閉会の挨拶～～

【事務局】 以上をもちまして、令和7年度第1回塩竈市子ども子育て会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。